

2020年10月7日

学校法人 立田学園 立田幼稚園
2019年度 自己評価結果報告書

学校法人 立田学園
理事長 上村 龍洲

1. はじめに

2019年度の教育活動と園の運営管理について園長及び教職員は自己評価を行った。その結果を理事長が分析し、令和2年5月に開催した学校法人立田学園の理事会にて報告した。その概要を下記にまとめ、ホームページにて公表する。

2. 2019年度自己評価結果

1. 教育計画	<ul style="list-style-type: none">・偏りのない保育、体験学習、遊びを中心としたカリキュラム等により、本園の教育目標・方針に沿った教育計画を立てている。・2019年度3学期は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、計画を縮小することとなったが、保護者の合意も得ながら必要な保育を実行することができた。
2. 保育の実施と指導	<ul style="list-style-type: none">・学年単位での活動を計画的に取り入れた学年では、クラスを越えた人間関係が広がったり、よりクラスの絆がより深まったりするなど、良い効果をもたらしていた。令和2年度は他の学年でも実践していく。・発達支援の必要な子ども達も各クラスで過ごせるよう、クラス担任の他にクラス補助者を配置している。一人ひとり異なる援助を適時、適切に行えるよう努めているが、それでも十分に行き届かないと感じる場面もあり、苦悩しながら進んだ一年でもあった。 子ども達同士は、支援の必要な子をサポートしながらも純粋に友だちとして遊ぶ姿が見られる。クラスの仲間としての意識が育っていることは素晴らしい。・3学期は、新型コロナウイルス感染症対策が発表される度に、保育の大幅な変更を迫られ、対応に追われた教職員の負担は相当なものであった。 令和2年度も感染症対策をしながらの保育実践になることを覚悟しつつ、できる範囲で最大限子ども達の成長を引き出す保育を実践していきたい。
3. 地域・家庭との連携と支援	<ul style="list-style-type: none">・保護者との連絡を密にし、一人ひとりの園児に細やかな対応をしている。発達支援が必要な園児については、保護者や支援機関との関係者会議を実施したり、療育先の参観をするなど、連携が進んでいる。・地域の社会と連携した活動は活発とはいえない。毎年、「生活科」「家庭科」「職業体験」の授業等で近隣の小学校、中学校の生徒を受け入れてはいる。しかし、幼稚園から提案した活動は出来ていない。また、近隣の方との交流活動も現在は行っていない。 新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年度に連携を進めることは難しいと思われるが、今後に向けて諦めずに機会を伺っていきたい。

4. 安全・衛生管理	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期は、コロナウイルス感染症への適切な対応が分からず試行錯誤し、衛生用品の不足もあって、不安を抱えながら開園する状況であった。再び感染が拡大することも想定して、年間を通して備えておく必要がある。 ・令和2年度は、何かと例年とは違う方式での保育実践となることが予想される。イレギュラーが多くなるため、いつにも増して安全面に注意することが求められる。 ・非常事態下においては、教職員の心身の健康管理にいつも以上に努め、心身が疲弊しないようにケアをする必要があることを痛感した。教師のストレスは保育の質や安全に対する的確な判断を鈍化させてしまう。十分に気を付けていきたい。
5. 人事管理・労務管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容及び発達支援の質の向上を図るため、数年前と比較すると大幅に人員増となっている。特に、教職に関する人材が多数を占めており、相互の連携が有効に機能するような人事管理も工面したい。 ・尚、新制度では人材確保のための処遇改善費用が盛り込まれているため、可能な限り給与等の引き上げに力点を置いた対応を考慮しつつ、査定概念も加えたい。
6. 財務管理と法人管理	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度より特定教育・保育施設の確認を受け、新たな制度の中で市町村の財政支援を仰ぐこととなったが、更に幼児教育・保育の無償化が昨年10月よりスタートしたため、収入の大半は公的資金となり、園児数さえ確保できれば財政的安定がある程度保障される仕組みとなった。 ・今後は補助活動収支や、委託販売収支のバランスにも力を注ぎたい。

3. 今後の課題と将来への展望

2019年度は、3学期になって突如生じた新型コロナウイルスへの対応に振り回され、且つて経験したことの無い年度末となった。

令和2年度に入ってから更に厳しい登園自粛が始まり、園を開けていても子どもは1割程度しか登園しない日々が2か月続き、まさに非常事態であった。

6月に再開してからも、「学校における新しい生活様式」に従い、感染症対策を常に意識しながら教育活動を行っており、何かと例年通りにはならない。一つひとつの活動について感染リスクを判断し、高リスクのものは変更するなど、試行錯誤を続ける日々である。

変化の多い日々で苦しいことも多いが、その一方で、これまでの教育活動を精査する契機となっていることは確かである。変えられること・変えるべきこと・変えてはいけないことを見極めた上で、新しいことを取り入れるチャンスと捉えて、より良い方向へ進んでいきたい。

幼稚園という環境の中で、一人ひとりの子どもが、様々な環境、友だち、教師と直接関わり、健全に育ち合うために必要なことは何か。令和2年度は、立田幼稚園の教育について、それぞれが深く考え、時には大胆に変えたりしながら、新型コロナウイルスを避けつつ漸進する一年としたい。

令和2年度は、このような視点も持って、教育活動や園運営についての自己評価を実施したい。